

# 日本ディスクロージャー研究学会会員の皆様へ 会長からの呼びかけ

東日本大震災をどのように考えるかは人それぞれの人生の問題に思います。それと同様に、学問の探究の場である学会がこれをどう考えるかは学会の存在意義を再確認する意味で重要だと思えます。

当学会が東日本大震災をどう受け止めるのか、学会としてなすべきことは何なのか、がいま問われています。そこで、学会の規定に基づかないことですが、会長のリーダーシップの範囲内とお考えいただき、以下の提案をご検討いただきたく存じます。

## 【 提 案 】

1. 当学会が東日本大震災に関して、あるいはこの度の経験を一般化して、学会としてどう対応すべきかを考える「任意の研究集団」を立ち上げたい。「任意」である理由は、学会公認とする規則が一切存在しないことによる。それにもかかわらず、常任理事会においてもその必要性が一定程度確認されている。
2. 日本大学を主催校とする第4回研究大会において、本テーマに関する発言の場（セッションなど）が確保できそうとの見込みが立ちましたので、本「任意の研究集団」の当面の目標を第4回研究大会における報告とする。必要に応じて、それ以降の大会においても意見発信を行う。
3. 法政大学を主催校とする第3回研究大会開催中に初の意見交換を行いたい。ただ、主催校にお骨折りいただいたのですがタイトなプログラムの中に意見交換の場を確保することは難しそうです。そこで、この呼びかけにご賛同いただけますならば、学会開催中のどの時間でも結構ですので呼びかけ人である柴にお声がけをいただきたいと思えます。
4. 第3回研究大会期間中における具体的行動計画はありません。そこで、本呼びかけに賛同いただける会員の皆様、本呼びかけに関して質問や意見をお持ちの会員の皆様には、本件のとりまとめを行う柴宛にご意見を賜りたく存じます。  
宛先は、[kenshiba@kansai-u.ac.jp](mailto:kenshiba@kansai-u.ac.jp) です。
5. 今回は任意の呼びかけを黙認していただいているのですが、本呼びかけは学会の存在意義にも関連しますので、学会の公式の場で本呼びかけをどのように扱うかについては、会長として、あるいは一会員として、継続して発言してまいります。吉村光威氏（旧学会元会長）は、「開示」と「公開」の改善を目指しておりました。企業による開示のみならず、行政による（保有情報の）公開が重要であると指摘であります。このたびの大震災に接して「公開」の重要性を再確認しております。

平成23年5月  
呼びかけ人  
会長 柴 健次